



あらたま  
**荒玉 賢佑**  
けんすけ  
誠友会  
(40分)



鞆町のまちづくりは

**問**

① 鞆てらすの運営状況は。

② 鞆松永線の阿伏免隧道は、大型車両の離合に課題がある。解決への取り組みは。

**答**

① 入館者数が1日当たり500人を超える日があるなど、多くの方に利用いただいている。鞆まちなみ再生活用相談所では空き家所有者からの相談などを受け付けている。相談所開設の趣旨や機能のさらなる浸透が課題と考えており、町内へのチラシ配布に加え、市外の方にはSNSなどを活用して周知を図っている。引き続き、地元町内会や地域ボランティアの意見も取り入れ、来館者アンケートなども行いながらより満足度の高い施設運営につなげていく。

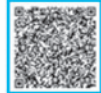
② トンネルの内壁による圧迫感から、通りにくいという声を聞いている。鞆未来トンネルの開通により観光バスなどの通行が増えることが予想されるため、より安心して通行できるように県に対策を求めていく。



名称は鞆未来トンネルに決定



いけがみ  
**池上 文夫**  
ふみお  
市民連合  
(65分)



放課後児童クラブのトイレ整備は

**問**

教室からトイレまでの距離が50メートルを超えるクラブもある。今後の改善策の具体は。

**答**

2016年度までに設置した38のプレハブ教室にはトイレがなく、児童は校舎などのトイレを使用している。こうした状況を改善するため、トイレまで50メートル以上離れている教室について順次整備を進める。今年度は津之郷放課後児童クラブに設置することとしている。



高校生などの通学費の補助制度は

**問**

通学費は保護者にとって大きな経済的負担である。補助制度導入を求める。

**答**

生徒が経済的負担を理由に希望する進学先を諦めないようにしていくことは重要と考える。他都市の状況なども踏まえる中で、教育、福祉、公共交通などの観点から関係部署が連携し、多面的に議論する。



こやま  
**小山 友康**  
ともやす  
市民連合  
(65分)



重層的支援体制整備事業は

**問**

① 事業の位置付けは。  
② 取り組みの経過と今後の方向性は。

**答**

① 重層的支援体制は、貧困や虐待、ひきこもり等、現在はそれぞれで行っている相談や支援会議を重層的につなぎ、課題のさらなる早期解決に取り組むものである。

② 今年度、既存の支援会議で扱われている相談や支援を把握し、これらをどう効率的につないでいくか、議論を重ねてきた。

来年度は、重層的支援会議を新たに立ち上げ、さらに手厚い支援の可能性を含め、方向性をこの場で協議する。その後、分野ごとの会議で具体的な支援方法を検討し、課題解決につなげていく。

また、コミュニティセンターが相談窓口になって総合的な支援に取り組んできた、自己実現に向けた支援システムも、この事業にとって欠かせない支援制度の一つと考えており、今後の検討に生かしていく。

